

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 7 NO. 2

(通巻 26号)

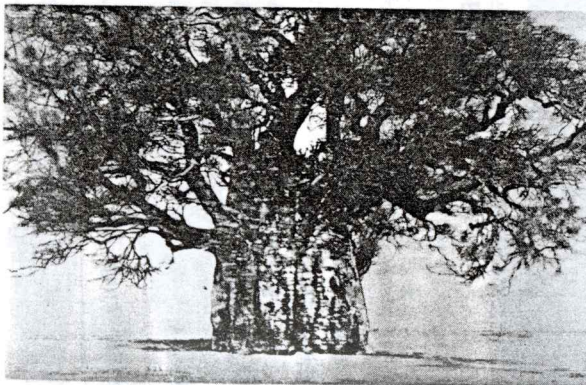
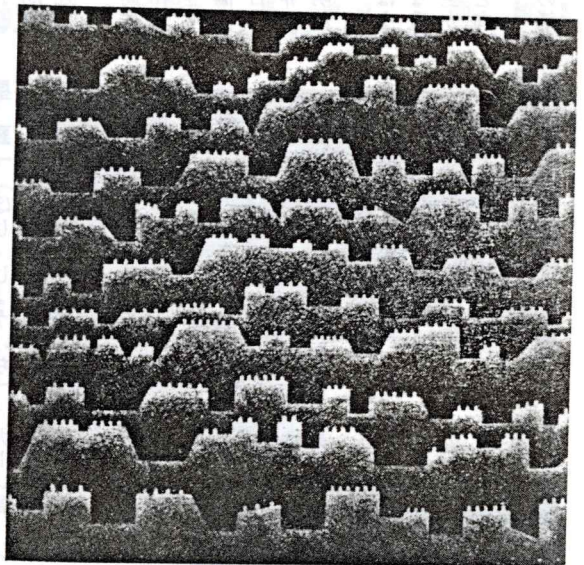
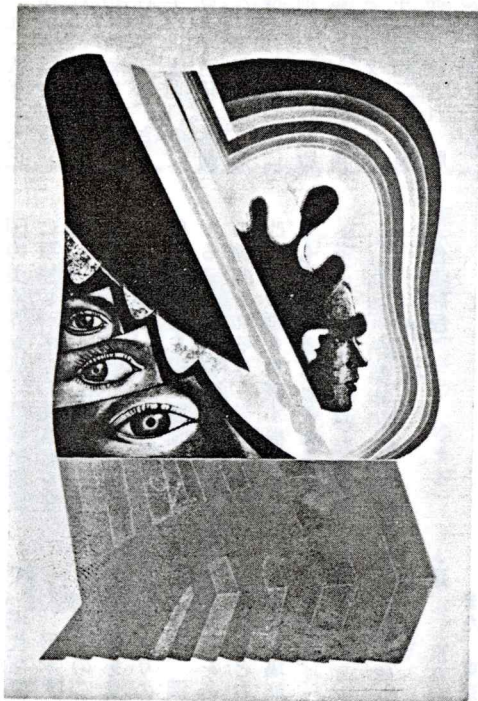
昭和55年 7月21日 発行

編集・発行人 高橋 在久

〒 260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎ 0472-42-8311 (代表)



▲浜口陽三「パリの屋根」

▼深沢幸雄「影(メヒコ) A」

◀星 襄一「王の樹」

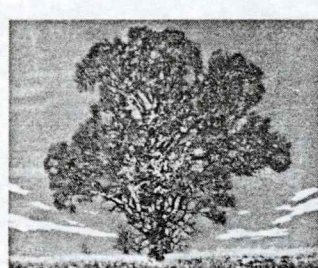
鋭い感受性をとおしてとらえた美の世界

—▷房総の美術家シリーズ⑩◁—

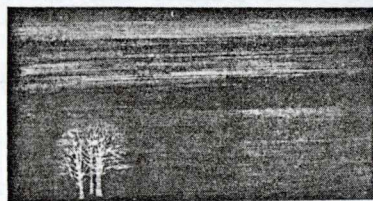
現代版画三人展

江戸期に栄えた浮世絵版画は、やがて衰退しながら時代は明治期に至った。従来の版画は、絵師・彫師・摺師による分業協同制作という方法で行なわれていたが、明治期になると版画界には反伝統、反浮世絵の精神が芽生え始め、自画・自刻・自摺によって自己表現を主張しようとする創作版画の運動へと発展していった。

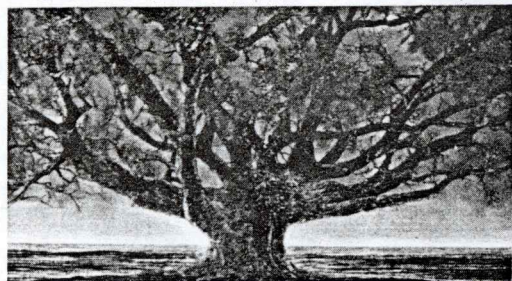
版画界は、このような時代のなかで一九三〇年（昭和六）洋風版画協会を設立し、翌年にはこれと日本創作版画協会その他の作家が集まって日本版画協会と改称して版画界の再建と復興が始まった。明治期以後、不当に軽視され、独自の道を歩み続けなければならなかった版画は、独特な造形表現で個性的な性格を生かしながら地道にその普及と向上を図ってきた。



「野の木」



「赤い地平線」



「夜明け」

一方では趣味的な安易な判断の制作が多くなり、昭和期前半にかけて低迷の時代を迎えた。

一九二七年（昭和二）帝展に版画の出品が受理され、版画は普及するかに見えたが、昭和期後半には趣味的な安易な判断の制作が多くなり、昭和期前半にかけて低迷の時代を迎えた。

《作者略歴》

星 襄一（ほし じょういち）
一九一三—一九七八

新潟県小出町に生まれる。

台南師範を卒業し、戦後台湾より帰国。後、武蔵野美術学校に学ぶ。日本版画協会展で協会賞、国画会展で国画賞を受賞するなど同会員として活躍。

況は、第二次世界大戦後わが国の美術界が広く国際美術展に参加し、多くの受賞者を輩出して国際的にも高い評価を得てからのことである。

こうして、現代の美術界に確実な位置を得た版画に注目することは、現代美術の一つの動向を知るうえでも、また改めて版画を見直す機会としても意義あることであろう。

●会期
7月25日（金）～8月24日（日）
月曜日休館
入場料 無料

美術を語る会

話題 「僕の版画に与えたメキシコの古代美術について」
話題提供者 深沢幸雄氏
日時 8月16日（土）午後2時
会場 千葉県立美術館県民アトリエ研修室

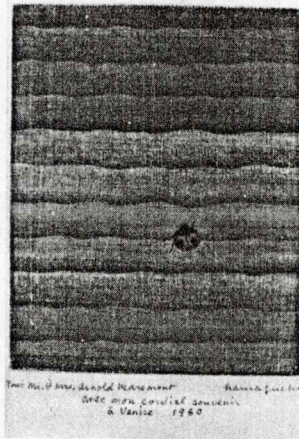
本館では「みる・かたる・つくる」美の広場を目ざし活動を行ってきたが、特に日本美術史の入門的講座として「美術館夏季大学」を開催している。

今回は、その第四回目として、昨年の「日本洋画史の流れ」をさらに掘り下げ、明治・大正期に重要な位置を占めた洋画家たちに焦点をあてて開講する。

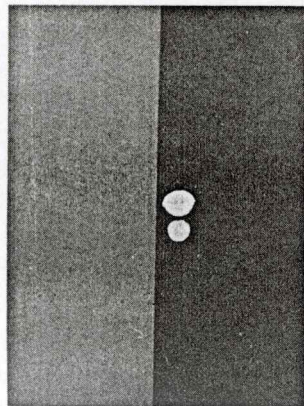
- 一、主催 千葉県立美術館
- 二、後援 千葉県立美術館友の会
- 三、場所 千葉県立美術館県民アトリエ講堂
- 四、期間 昭和55年8月1日(金)・2日(土)
- 五、時間 両日とも、午前9時半～午後4時
- 六、受講料 無料(但し、テキスト代等若干の自己負担あり)
- 七、内容 8月1日午前

第四回 美術館夏季大学

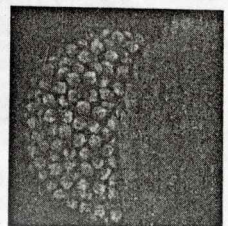
- | | |
|--|--|
| <p>講師 高橋在久(本館館長)</p> <p>課題 浅井忠と明治美術会の人々</p> <p>8月1日午後</p> <p>講師 陰里鐵郎氏(東京国立文化財研究所主任研究官)</p> <p>課題 黒田清輝と白馬会の人々</p> <p>8月2日午前</p> <p>講師 田中穰氏(読売新聞編集委員)</p> <p>課題 初期文展の人々―日展源流考―</p> <p>8月2日午後</p> <p>講師 朝日晃氏(東京都美術館事業課長)</p> <p>課題 大正期の美術と白樺</p> <p>八、募集人員 二百名(応募者多数の場合抽選)</p> <p>九、応募方法</p> <p>(1) 往復はがきに住所・氏名・年令・電話番号を明記して、美術館「夏季大学」係迄。</p> <p>(2) 来館の際、直接申込みをされても結構です。</p> | <p>浜口陽三(はまぐち ようぞう) 一九〇九</p> <p>和歌山県有田郡広村(現在の広川町)出身。生家は銚子で代々醤油醸造を家業としており、六歳の時銚子に移住。興野小学校卒業。東京美術学校塑像科に学ぶ。彫塑、油絵、日本画の研究を経て戦後本格的に版画を始める。</p> <p>サンパウロ国際ビエンナーレ版画部門最高賞をはじめ数多くの受賞がある。現在はパリに在住。</p> |
|--|--|



「てんとう虫」



「くるみ」



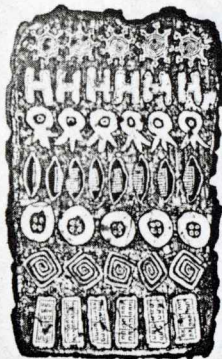
「あじさい」

深沢幸雄(ふかざわ ゆきお) 一九二四

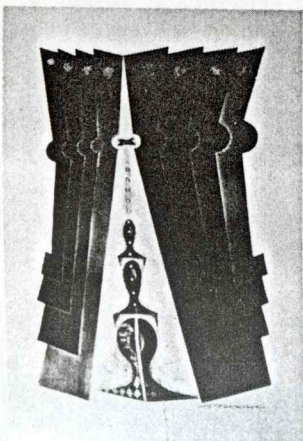
山梨県西八代郡市川大門町に生まれる。東京芸術大学彫塑科に学び、後独学で銅版画

を学ぶ。東京国際ビエンナーレ展、ルガノ国際版画ビエンナーレ展、フイレントツエ国際版画ビエンナーレ展などに出品し、国内外で活躍。日本版

画協会賞、現代日本美術展版画部門最高賞などの国内外で受賞多数。日本版画協会会員。現在市原市に在住。



「古い楽譜」



「家族」

— 抒情の旅路 — 九月十三日(土)より十月十五日(水)まで開催

特別展 竹久夢二展

までどくらせどこぬひとを
宵待草のやるせなさ
こよいは月もでぬさうな。

明治末期から昭和初期にかけて、独特の美の世界を築きあげて、一世を風靡した竹久夢二をご存知ですか。

夢二式と呼ばれた抒情的な美人画をすぐに思い浮べる方もいるでしょう。あるいは、童話の挿絵を思い出されるかも知れません。更に、楽譜や婦人雑誌の表紙の絵、多くの本の装幀等々。また、夢二の図案による半襟や浴衣も大いにもてはやされました。夢二の創作活動は、実に幅広く多彩でした。

これらの夢二の業績を一堂に集め、夢二の歩んだ抒情の旅路を探るため、今秋、「竹久夢二展」の開催を企画しました。現在、準備も順調に進んでおり、きつと、皆様に御満足いただける展覧会を開催できるものと、確信しています。御期待ください。



「紀ノ国屋」



「黒船屋」



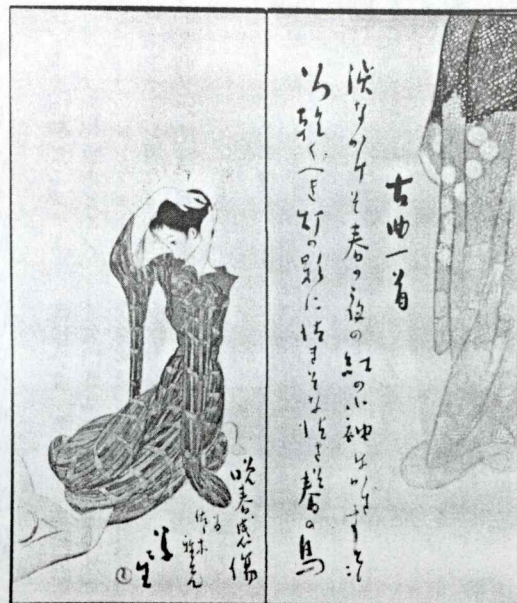
「春より秋へ」



「時雨の炬燵」



「丘上の少女」



「晚春感傷」

トピックス

●緑の下総へ
バスの旅終わる

友の会との共催として行われる「美術鑑賞バスの旅」が、去る五月十一日(日)に一〇五名の参加をみて行われた。

まず佐原市の県立大利根博物館を見学し、利根川を中心とした東下総地方の歴史と文化について学んだ。次に、潮来町の臨済宗長勝寺に行き、国指定重要文化財の銅鐘、県指定の山門・仏殿な



どを拝観し、最後に香取神宮を参拝した。
終日、天候にも恵ぐまれ、

千葉県立美術館協議会
委員決まる

館の運営等に関し、館長の諮問に応じる協議会の委員には、学校教育・社会教育の関係者ならびに学識経験者より構成されているが、任期満了にともない、新たに次の方々が決定した。

鈎持 徹 (県立生涯高等学校長)
浅見喜舟 (和洋女子大学教授)
遠藤健郎 (画家)
田中 稊 (読売新聞社編

集委員)
笹岡了一 (県美術会理事長)
鈴木民三 (県立美術館友の会会長)
中村傳三郎 (東京国立文化財研究所名誉研究員)
野口貞子 (千葉市婦人グループ連絡会役員)
牧田 茂 (白梅学園短期大学教授)
池田一男 (千葉市立末広中学校校長)
(順不同・敬称略)

初夏の日ざしと新緑の中で楽しい一日を過ごした。

●関東地区博物館協会
総会・研究会開く

去る五月二十九日(木)・三十日(金)の二日間にあたり関東地区博物館協会の総会・研究会が、三十五館六十一名(うち個人会員三名)が参加して開かれた。

一日目は、総会を行い、終了後、ただちに研究会に移り本館高橋在久館長により「江戸前考」というテーマで研究発表がなされた。また、夜には懇親会が開かれ、参加者の親睦がなされた。
二日目は、見学会があり、船で東京湾臨海工業地帯を巡回した。



団体展
(8月・9月)

- ▽龍峽書道会展 8・5・8・10 無料
- ▽千葉市教職員美術展 8・19・8・31 無料
- ▽第10回いてふ会彫刻展 8・19・8・31 無料
- ▽子どもと教師の作品展 8・26・8・31 無料
- ▽第20回白扇会書道展 9・2・9・7 無料
- ▽第9回写真千葉県展 9・2・9・15 無料
- ▽第6回千葉県児童美術展 9・9・9・15 無料
- ▽静雅書道千葉地区展 9・17・9・21 無料
- ▽第7回文化書道千葉県連合会展 9・17・9・21 無料
- ▽千葉80展 9・23・9・28 無料
- ▽新構造千葉支部展 9・30・10・5 無料
- ▽千葉県勤労者美術展 9・30・10・5 無料
- ▽ファンシー展 9・30・10・5 無料
- ▽新構造千葉支部展 9・30・10・5 無料

来館者

5月 7日 京都府総務部財政課 二名
5月 8日 松平福島県知事
29日 北海道教育庁社会教育部文化課一名

日記抄

5月 1日 県教育庁地方出張所 長会議
11日 友の会美術鑑賞バスの旅
14日 県博物館協会役員会 及び総会
17日 美術を語る会(話題提供者 松尾敏男氏) 彫塑制作講座始まる。
24日 県立美術館・博物館 学芸課長会議
27日 関東地区博物館 協会総会・研究会
6月 4日 県博物館協会企画委員会
10日 県博物館協会役員会 友の会主催洋画入門 講座始まる
28日

県民アトリエあんない

各種講座はじまる

トップを飾り彫塑制作講座

彫塑制作講座

本年度最初の実技講座「彫塑制作講座」が去る五月二十四日(土)より毎週土曜日、日曜日の計八日間、真新しい県民アトリエの第二実技室で開催された。

講師は、本館に設置されている「浅井忠像」「椅子の女」を制作された大須賀力氏(彫刻家)で、受講生ひとりひとりに熱心に指導された。

講座は頭像の制作で、心棒作りから肉付けへと制作が進むにつれて、受講生もたびたびむずかしいといった様子をみせていたが、講師の先生の適切な、しかも時折りユーモアをまじえた指導で、真剣な中にもなごやかな雰囲気が進んだ。また、石膏取りの段階では、新しく助手の先生も加わり、ときばきと作業が進められた。



そして、割り出しが終り、自分の作品を目の前にしての受講生の顔は満足感に満ちていた。

最後に、「浅井忠像」の前で講師の先生を囲んで記念写真を撮り、楽しいひとときを過ごして終了した。

洋画基礎講座

去る五月三十日(土)から始まったこの講座は、九月十五日

(土)まで計十日間行われる。

講師は千葉大学助教授戸田健夫氏で、講座は、第一日・第二日(土)が石膏デッサン、第三日・第四日(日)が人物デッサンであった。洋画の基礎である対象をしっかり観察し、それを正確に表現する学習で、比例・立体感・質感・量感・動勢などについて、講師の先生から熱心な指導があった。次回より、静物、人物などの水彩画を学習する予定である。

各種講座あんない

●デッサン入門講座

初心者を対象として、形や明暗のとらえ方、質感や量感の把握など、石膏像をモデルにして絵画表現の基礎的な学習を目的とした講座である。

●期日

二期 9月12日・13日
三期 11月8日・9日

●時間

午前10時～午後4時

●講師

篠崎輝夫氏(日展会員)

●募集人員

30名(応募者多数のときは抽選で決定)

●会費

無料(ただし、教材費については自己負担)

●締切

二期 8月30日(土)
三期 10月25日(日)
※期日変更のお知らせ
今回、都合により9月10日(水)・11日(木)の期日が、9月12日(金)・13日(土)に変更になっていますのでご注意ください。

●書芸入門講座

今回は「書芸入門講座」として、初心者を対象に書に対する考え方の講話と実習を兼ねて行う。

●期日

8月10日(日)

●時間

午後1時～午後4時

●講師

浅見喜舟氏(県美術会々長)

●募集人員

30名(応募者多数のときは抽選で決定)

●会費

無料(ただし、教材費に

については自己負担)

●締切

8月2日(日)

●第二回彫塑制作講座

彫塑の素材として粘土を使用し、対象物から受ける感動を固体として実らせ、新しい空間に蘇生させるという表現の喜びを育てる講座である。今回は、前回同様初心者を対象にモデルによる頭像を学習し、石膏取りまで行う。

●期日

10月1日(水) 2日(木)
10月9日(水) 10日(金)
10月17日(金) 18日(土)
19日(日)

●時間

午前10時～午後4時

●講師

青木三四郎氏

●募集人員

20名

●会費

無料(ただし、モデル・助手・石膏代等として、七千五百円程度の自己負担)

●締切

9月6日(月)

※各講座への申込方法

①講座名②住所、氏名、年齢③電話番号を明記し、美術館普及室研修係宛往復はがきでお申込みください。なお応募者多数の時は抽選になります。